

文部科学省より平成20年5月1日現在の学校基本調査速報が公表された。今回の調査で専修学校は、学校数は前年度に比べ33校減少し3,402校、また在籍者数は前年度に比べ4万6千人減少し657,406人であることがわかった。

また、今春の高等学校卒業生1,088,243人に占める専修学校専門課程入学者の割合は、昨年度に比べ1.5ポイント低下して15.3%と減少し、過年度高卒者等を含む進学率も1.1ポイント低下して20.6%となった。なお、今春の高卒者のうち大学(学部)への進学率は1.8ポイント上昇して過去最高の45.9%(500,008人)、また就職者の割合は5年連続で上昇して19.0%(206,596人)となった。

専修学校、各種学校についての主な速報値は次のとおり。

【専修学校】

学校数 全体では前年度より33校減少し、3,402校となった。

都道府県別の学校数は、東京都451校、大阪府246校、愛知県186校、福岡県185校、北海道184校の順で多い。前年度との比較では、長野県、鹿児島県でそれぞれ2校など、計10県で増加したのに対し、東京都で5校、愛媛県で4校、栃木県、千葉県、岐阜県、福岡県でそれぞれ3校など、計24都府県で減少した。

課程別では、専門課程を置く学校は28校減少して2,967校、高等課程を置く学校は21校減少して503校、一般課程を置く学校は16校減少して198校となった(課程併設校あり)。

学生・生徒数 全体では657,406人となり、前年度比46,084人(6.6%)の減少。平成17年度から4年連続の減少となった。

課程別では、専門課程は44,628人(7.1%)減少して582,769人、高等課程は1,411人(3.5%)減少して38,730人、一般課程は45人(0.1%)減少して35,907人となった。

都道府県別では、東京都151,120人、大阪府74,597人、愛知県44,430人、福岡県43,893人、北海道33,779人の順になっている。前年度との比較では、福井県で21.2%、秋田県で19.4%、栃木県で11.0%、広島県など4県で9%台、千葉県など5都府県で7%台、福岡県など8府県で6%台、25の道県で6%以下の減少が見られる。一方、青森県、長崎県の2県では、学生・生徒数が増加している。

分野別では、医療210,657人、文化・教養144,929人、工業86,948人、衛生79,264人、商業実務64,632人、教育・社会福祉41,893人、服飾・家政25,576人、農業3,507人となった。

前年度比で増加したのは、農業分野の1分野で72人(2.1%)の増加となっている。他7分野では減少し、教育・社会福祉11,869人(22.1%)、衛生8,576人(9.8%)、工業8,413人(8.8%)、医療6,871人(3.2%)、文化・教養5,520人(3.7%)、商業実務3,926人(5.7%)、服飾・家政981人(3.7%)の減少となっている。

分野別学生数を専門課程でみると、医療は196,670人(6,579人・3.2%減少)、文化・教養は107,905人(5,923人・5.2%減少)、工業は82,553人(8,154人・9.0%減少)、衛生は72,658人(8,089人・10.0%減少)、商業実務は57,906人(3,875人・6.3%減少)、教育・社会福祉は40,502人(11,622人・22.3%減少)、服飾・家政は21,077人(491人・2.3%減少)、農業は3,498人(105人・3.1%増加)となった。

また、全体の学科別で増加が目立つのは、理学・作業療法1,507人、料理1,174人、工業その他1,160人、受験・補習536人、情報495人、通訳・ガイド440人、衛生その他409人、准看護357人など。減少傾向が見られたのは、情報処理6,153人、美容5,016人、介護福祉4,759人、医療その他4,660人、教育・社会福祉その他2,808人、調理2,748人、保育士養成2,306人、デザイン1,816人など。

修業年限別でみると、専門課程の2年以上3年未満で33,103人(9.5%)減の316,311人、3年以上4年未満で9,418人(4.8%)減の187,422人となったのに対し、1年以上2年未満で267人(7.9%)増の3,630人、4年以上で931人(2.0%)増の48,227人となった。

入学者数 全体で306,164人となり、前年度比で28,253人(8.4%)減少した。

専門課程では入学者のうち新規高卒者数は前年度比24,698人(12.4%)減少して175,128人となった。高卒者の専門課程の進学率は前年度よりも1.5ポイント低下して15.3%となった。なお、今春の新規高卒者は1,088,243人で前年度より58,916人(5.1%)減少している。

専門課程入学者のうち大学等の卒業生数は、前年度より951人減少の19,847人となった。内訳は大学卒業生14,638人、短大卒業生4,473人、高等専門学校卒業生736人。入学者全体に占める割合は前年度よりも0.4ポイント上昇して7.8%となった。

また、新規中学校卒業生の高等課程進学者は7,672人となり、前年度より331人(4.1%)減少している。

卒業生数 全体では310,341人となり、前年度より23,522人(7.0%)減少している。制度施行10年目となる専門課程卒業生の大学への編入生数は2,636人で前年度に比べて73人(2.7%)減少した。

教員数 本務教員数は41,684人で419人(1.0%)の減少。本務教員1人に対する学生・生徒数は前年度16.7人から今年度15.8人になった。また、兼務教員数は110,127人で140人増加した。

【各種学校】

学校数 全体で1,584校となり、前年度比70校(4.2%)減少した。都道府県別の学校数は、東京都178校、愛知県109校、兵庫県91校、三重県79校の順で多く、京都府で1校増加したが、愛知県で9校、茨城県で7校、山梨県で6校など、計29都道府県で減少した。

生徒数 全体で137,281人となり、前年度比で12,653人(8.4%)減少した。

都道府県別にみると、東京都29,684人、愛知県13,372人、大阪府9,943人、兵庫県9,336人、福岡県5,777人の順で多い。増減数については、三重県47人など4県で増加したが、東京都1,370人、大分県648人、愛知県585人など43都道府県で減少した。

分野別では、その他分野(予備校・自動車操縦等)は7,743人(8.4%)減少して83,913人、文化・教養は27人(0.1%)減少して22,095人、商業実務は866人(5.8%)減少して14,150人、医療は595人(5.5%)減少して10,301人、家政は604人(10.9%)減少して4,938人、衛生は183人(22.5%)減少して629人、教育・社会福祉は89人(18.1%)増加して581人、農業は57人(14.4%)減少して338人、工業は6人(1.8%)増加して336人となった。